

学校教育目標		総合評価
人間尊重の精神に徹し、自ら考える力と、創造的な知性、及び実践力を養い、調和のとれた人間の育成を目指す。 『自主・自律の精神に徹する』 『真摯な態度で自己目標の実現に努める』		・全職員が“チーム東”の一員として一致団結し、多様な教育活動を展開し、人材育成に努めてきた。学習活動に積極的に取り組む生徒は年々増えてきている。生徒の積極性を高め、人間性を一層高めるためにも、今後とも幅広い活動を展開していきたい。 ・ボランティア活動や公開授業、ホームページなどを活用した広報活動を通じて地域との連携を図り、開かれた学校づくりに取り組んだ。今後一層の努力をし、東高の活動をより多くの人に知っていただき、地域からの信頼を高めていきたい。 ・多くの生徒がクラブ・同好会に加入して活動し、また生徒会活動も活発に行われた。生徒の主体性を高めるための指導・サポートを引き続き行っていきたい。
中長期的目標		
学校教育目標に則り、地域から信頼され、地域に貢献できる人材の育成を目指す。 1 地域に開かれた学校づくりを進め、地域の信頼を高める。 2 自らが学ぶ学校を誇りとし、自己目標の実現に向かい主体的に取り組む生徒を育成する。 3 全人教育を進め、クラブ活動など生徒の自主活動をさらに活性化することを目指す。		
今年の重点目標		成果と課題
1 学ぶ楽しさを実感し進路の希望を実現できる学校づくり 2 いじめや体罰のない、安全・安心な学校づくり 3 生徒一人ひとりが自己を見つめ、力を発揮できる学校づくり 4 生徒の人権を尊重し、保護者・地域に信頼される学校づくり		生徒は落ち着いた学校生活を送っている。一方で、現状に満足し、十分に力を伸ばしているとはいえない。 就業体験や高大連携、校外授業など、学校の活動として外へ出て学ぶ機会には積極的に取り組んでいる。一方、地域でのボランティア活動など自主的な活動に参加する生徒は減ってきている。
		次年度にむけての改善策・向上策
		引き続き、きめ細やかな指導を行う。目標を持たせ、達成することで生徒に自信を持たせ、意欲を高める指導をしていきたい。 身だしなみや通学時の交通マナーなどは、一層指導を強化して、改善できるようにしたい。

《教育活動領域》

対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
教育課程 ・ 学習指導	1 3 3 教養フロンティアコースの取り組み	・学年と進路係が連携をとりながら、生徒ひとりひとりに進路実現へ向けた系・講座の選択をさせる指導ができたか。 ・2・3年系別講座編成に対して、スムーズな編成と工夫ができたか。 ・信州豊南短期大学との高大連携事業において、関係する分掌・教科で連携の計画・実行が行えたか。	・進路講話等を実施し、生徒の進路意識の形成を図りながら進めることができた。一方で、現行の教育課程においては、開設講座数・講座の受け入れ可能人数等の面で生徒個々の要望を叶えるには支障をきたしており、また系の選択人数によっても現状では対応できない状況となってきた。 ・各学年が主導により、意見・要望を十分に考慮した講座編成ができた。 ・高大連携委員会がまとも役になり、該当の教科・科目を中心に順調に立案・計画・実行ができた。また例年行っている成果発表会を本年度より、「岡谷東高校学習成果発表会」と改称し、2学年全生徒・1学年健康スポーツコースの生徒が参観するようになった。	・現在教育課程委員会において来年度の系・講座選択に向けた、教育課程の見直しに着手している。今後、教科・学年・将来構想委員会等で連携しながら、教育課程の見直しを進め、最大限の努力をしている。 ・各学年主導の形ではあるが、講座編成においても教育課程委員会とより連携していくことが必要である。 ・教養フロンティアコースの特色として、高大連携事業を打ち出すことができてはいるが、現状3年次のみであり、今後教養フロンティアコースの特色をさらに出していくためにも、1・2年次における連携事業等を検討していく必要がある。
	1 3 3 健康スポーツコースの取り組み	・コースの特色を活かした進路実現を行える少人数講座や授業内容の工夫ができたか。 ・松本大学との高大連携の計画・業務遂行をスムーズに行い、内容をより充実させることができたか。 ・各学年ともミックスホームルームにおいて、コース独自の科目展開による成果はあったか。	・体育科を中心に、スポーツ等の授業において進路に関わる側面を提示した授業の実施などを行うことができた。 ・順調に立案・計画・実行することができた。 ・2・3年生においてはスポーツ等の授業などでコース独自の学習を展開することにより、コースの特色を踏まえた進路意識の形成を図ることができた。	・教科において今後も内容の充実に向けて継続した取り組みを行うとともに、将来構想委員会・教育課程委員会と連携してコースの特色と進路実現の方向性を検討していく必要がある。 ・健康スポーツコースの特色をさらに打ち出せる連携事業となるよう、将来構想委員会と連携して、内容の充実を検討していく必要がある。 ・2・3年次だけでなく、1年次におけるコースの特色を高大連携事業以外にも求めていることが必要である。
	1 3 4 授業の改善と工夫	・「丁寧でわかりやすい授業」を目指し、生徒の学習意欲を喚起できるような授業内容の工夫を行うことができたか。 ・保護者や地域に対して授業公開を行い、教師間の授業公開・研修を通して、授業改善に向けた努力ができたか。 ・各学年・各クラス・各講座等での情報交換会を行うことで生徒理解を深め、個々の授業展開を考える契機にすることができたか。	・教師個々に工夫を凝らし、わかりやすい授業を心がけている。ICTを用いた授業などにより生徒の学習意欲向上に努め、繰り返しの小テスト・ドリル等により、学習内容の定着をはかり、生徒の学習意欲の向上に向けた取り組みを行っている。 ・年間の計画に基づき、授業公開を実施することができた。その際に、教師間での授業見学を呼びかけ、意見交換を図ることを促した。 ・毎週の学年会において、学年ごとにクラス・講座・生徒について情報交換がなされ、生徒理解に努めることで、授業の改善につなげることができている。	・個々の取り組みだけでなく、全職員が改善と工夫を行う意識を高められるよう、将来構想委員会・教育課程委員会・教務係等で授業内容の充実に関して検討し、全職員で協議を深めていく。 ・開かれた学校づくりに向け、授業公開のあり方・実施時期等については今後さらに検討の必要がある。 ・今後も学年と教科での連携を取りながら、生徒理解に努めた授業を行えるようにしていきたい。
	1 3 4 基礎学力の補充と進学希望者の進学意欲を向上させる取り組み	・進路・学習係の取り組みを中心に、本校の生徒の状況を理解して、基礎学力の補充について具体的に取り組むことができたか。 ・特に進学希望者に対して、補習など授業外での学習機会を作ることができたか。	・進路実現に向けた小論文対策、面接指導を行うとともに、調査前の学習強化週間、保護者懇談期間を活用した学力補充の補習を実施した。一部の学年・教科においては、学びなおしの機会としての補習を設けたが、今後このような機会を定期的に設けていくことが必要不可欠となっている。 ・木曜7限補習を中心に、各学年・進路係が主導して進学補習等を実施し、別日にも複数教科希望生徒に補習を行うなど対象と範囲を広げることができた。一方で進学希望生徒の参加率が高いと言える状況には必ずしもなっていない。	・入学後の家庭学習の状況や学びなおしに課題が残る中で、入学後の学力向上に向けた方策を検討していきたい。 ・進学希望者に対しては、各学年と進路係が連携しながら、早期から進路意識の形成と共に、進学補習への恒常的な参加を促していき、合わせて補習内容についても検討を加えていく必要がある。

対象	対応要 点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
進路指導	1 3 4	進路意識の涵養	・あらゆる活動が進路学習に繋がるよう、そのための手立てを講じたか。 ・保護者懇談会、学年PTA、進路だより等を活用し、保護者との連携が図れたか。 ・進路係と教育課程委員会が連携し、科目選択に合わせた進路意識の向上が図れたか。 ・将来構想委員会と連携し、進路指導の重点分野を設定することができたか。 ・進路指導室を生徒が有効活用できる場として整備できたか。 ・学校説明会やオープンキャンパス等の情報を各生徒に行き届くように周知できたか。	・3学年の生徒については必要に迫られて進路室に来る生徒が多いため、それらの生徒の意欲を喚起することについては成功していると思う。 ・各種委員会から依頼など受けることがあり、それに対応する、ということに留まった一年だった。 ・進路室については、不要物の処分や整理整頓を心がけることで、この一年間で随分きれいになりやすくなった。 ・生徒に対しての情報提供は問題なく行うことが出来ている。	・1・2学年の生徒に進路意識を持たせていくことが課題。現実には3年目から入試対策をしているようでは、大学の一般入試には対応できないのにそのことを知らないまたは目をそらしてしまう生徒が多い。 ・教員同士の情報共有にはまだまだ課題が残る。志望校や進路活動状況を学年全員で把握すること等まだまだできていない状況。
			・新たに導入された「職業調べ」学習が、生徒の進路意識を高めることや生徒の職業理解を高めることに役立ったか。 ・「ひろがれわたし」が事前・事後指導を含めて、キャリア教育の一環として効果的な形で運営されたか。 ・3学年の「総合的な学習の時間」が全職員の協力の下、生徒の進路実現に向けて、効果的な形で運営されたか。	・「ひろがれわたし」について、今年度から事後指導の活動を充実させ、ポスターセッションから最終的にはプレゼンテーションまで、生徒に体験させた。情報を共有する、また発信力を身に付けるといった観点から考えると非常に有意義な時間になったと考える。 ・3学年の総合は概ね有効に時間を使えてきたと思う。	・「ひろがれわたし」の事後指導については次年度行うことになれば、本年度の反省を生かし、年度初めに計画を出した上で行ってきたい。 ・3学年の総合については、内定後、合格後の生徒の指導が困難な状況。全体を見直して、次年度は計画してきたい。
	1 3	進路実現に向けた入試・就職試験への対応	・各学年における進学希望者及び就職希望者への補習が、適切な時期に効果的な内容で行えたか。 ・センター試験や一般試験に繋がる補習や模試を計画し、生徒が活用できる環境を整えられたか。 ・小論文、面接対策が十分になされたか。 ・必要に応じ、個別指導がなされる体制を整えることができたか。 ・新たに作成された「進路の手引き」は生徒の実態に合っており、生徒の進路学習の理解を深め、生徒の進路意識を高めるものになっているか。	・希望者補習・センター補習双方ともに、計画的に行ってきた。 ・各種模試、センター試験を生徒の学習の意欲の喚起に役立たせることができた。 ・3学年の生徒について、小論文・面接対策は生徒によって個人差はあったと思うが、全体的に見ると取り組みは非常に良好。放課後は進路室やその他の研究室をまわって指導を受けている生徒が年間を通して、たくさんいた。 ・「進路の手引き」については、今年度は簡単な改正のみ行い、本格的な改正は次年度に引き継ぐ。	・補習については参加する生徒は増えてきているものの、効果がなかなか上がらないのが課題である。考えられる要因としては、家庭学習の習慣化ができていないことがある。補習でせっかく理解することができてもそれを繰り返して定着させるという段階に上げていくことのできる生徒が少ない。対応策としては補習の時間をもう少し増やすことなどがあがるが、先生方の日常の業務を考えるとなかなか難しい。
	1 3	基本的学習習慣の確立	・生徒の家庭学習習慣確立のための手立てを講じたか。	・生徒の意識が変わりつつあるので教員側の「かじ取り」の重要性が課題を感じている。	生徒の希望と実態をよく考えて課題などを提供していく必要があると感じる。
生徒指導	2 4	対話の重視による生徒理解と家庭との連携	・生徒との対話が的確にされているか。また、対話や声かけによりトラブルを未然に防げたか。 ・ガイドラインの周知や生徒への指導について、保護者の理解や協力は得られたか。 ・関係者間の連携により相談活動、カウンセリング活動が効果的になされているか。 ・生活指導通信「まごころ」によって呼びかけや注意喚起が十分に行われているか。 ・PTS協議会への投げかけを行うなど、生徒との対話の機会を持つことができたか。	・家庭との連携がとれるように些細な事例でも疎かにせず、担任やクラブ顧問から保護者への連絡を丁寧に行った。また、生徒の事情等も丁寧に聴きとりをし、生徒理解に努める体制をとることが出来た。 ・『まごころ』により、生徒と保護者にその時に必要な事項や生徒の活動を周知できるよう考えているが、家庭へ届いていないことも多く、内容が伝わらないのは残念である。家庭との連携を図るためには学校の様子などを知って頂きたいため、今後も『まごころ』を発行し、保護者へ伝えるように工夫したい。	・生徒の指導における「対話と説得」の基本的精神は次年度以降も堅持してゆきたい。
			1 2	学習習慣・学習環境の確立	・学習規律項目の指導が徹底できたか。 ・遅刻、欠席について生徒に対する指導は十分できたか。 ・上記の指導において、科目担当者から担任へ授業の様子等について情報伝達できたか。
	2	身だしなみ指導の徹底と生活マナーの向上など規範意識の確立 職員態勢の確立	・身だしなみ(頭髪・服装)検査の成果は上がったか。 ・校内での生活や通学時の規則やマナー、また、交通ルールについて指導ができたか。 ・いじめのない学校作りができていないか。 ・盗難をなくす指導は効果を上げたか。 ・進路内定後の生活の指導は効果が上がったか。 ・全職員が足並みをそろえて、集团的・組織的に指導にあたる体制が作れたか。	・身だしなみについては、各学年で検査や呼びかけによって大きな違反者は減少しているが、細かい点には注意が必要な生徒もいる。また、冬服期間の服装について基準を明確にし、保護者にも理解していただくように通知の配布をしたが、徹底には至らなかった。さらに指導が必要である。 ・自転車事故については発生件数が増加し、大きなケガになってしまったケースもあった。その都度情報を流してクラス等で注意喚起をしたり、緊急放送で呼びかけたりした。また、交通安全委員会が新たな活動をして、生徒から注意を呼びかけた。2学期後半から事故は減少したが、今後も継続的な注意が必要である。 ・いじめアンケートや日頃の係会等で生徒情報を共有しているが、「いじめ」として認知した例はなかった。早期に発見し、いじめに発展させないよう目を配りたい。 ・現金盗難が発生しており、対策に苦慮する場面が多い。生徒は貴重品に対する管理意識が低いため、職員側も呼びかけなどを充分に行い、意識の徹底を図りたい。 ・係会を定期的に行うことにより、係内や学年間で情報を共有することが容易になり組織的な指導体制をとりやすくなった。 ・職員会等において生徒状況についてできるだけ情報共有ができるように努めた。共有することで職員間や学年間で指導体制に差が無いようにできればと考える。職員の統一的指導は今後も重要である。	・自転車事故が多発しており、来年度も継続して指導の徹底が必要である。 ・現金盗難については対策が難しく苦慮している。貴重品の管理についてさらに徹底した指導が必要である。 ・身だしなみについて徹底のできない部分があり、規則の周知や規範意識の確立など根強い指導が必要である。また、頭髪など生徒への指導について、学年の生徒指導担当に連絡が入るような形がとれると指導がスムーズにできる。
			1 3	特別支援教育の確立	・教員間で生徒の情報を共有し、必要に応じ早期に対応策が講じられたか。 ・対象生徒の状況把握に努め、適切な支援が行えたか。 ・学校、家庭、医療機関、地域の支援センターなどと連携しながら支援が進められたか。 ・職員研修を行い、生徒を社会へ送り出すために適切な支援について体制作りができたか。

対象	対応要 点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
生徒会	3	生徒の主体的活動の促進	<p>・今年度生徒会スローガンに基づき、各組織が能動的な活動を展開できたか。</p> <p>・文化祭において生徒が主体的に計画・運営し、職員が適切な助言・指導を行えたか。</p> <p>・クラブ活動の活性化をめざし、心身の成長を育むクラブ活動が行えたか。</p> <p>・PTS協議会および全校PTSの企画・運営を通じ、生徒の成長を促すことができたか。</p> <p>・社会貢献に繋がる活動としてエコマネージメントへの取り組みを進めることができたか。</p> <p>・A. O. H. S. (オール・岡谷・ハイ・スクール)の一員として、岡谷3校の生徒会と連携した活動ができたか。</p>	<p>・見通しを持った計画と準備が及ばない場面は多々あったが、失敗から学ぶ中で、能動的に計画実行する力が身についた。今後は、委員会間の連携を通して包括的な活動に発展させることが課題である。</p> <p>・昨年度の反省を各所に生かし、多くの制約の中でも真摯な姿勢で目標に向けて多くのアイデアを実現することができた。職員からも細やかなサポートをいただいた。文化祭期間中の身だしなみの乱れが今後の課題である。</p> <p>・運動部、文化部とともに日常活動の充実を図るとともに、大会などで成果を上げている。新たな同好会が発足するなど、さらなる活性化の兆しが見える。一方で、部員が増えずに苦慮しているクラブもある。</p> <p>・全校PTSにあたり事前のアンケート結果の分析を全校生徒に放送で解説したり、討論を経て生徒会活動としてできることを生徒総会で提案するなど、意見交換に終わらないための努力が随所に見られた。今後は討論の柱の妥当な絞り込みが課題である。</p> <p>・継続してエコキャップ回収活動を行うことができた。</p> <p>・今年度は本校が事務局を務め、熊本地震の際は市内3校が連携して募金活動を行うことができた。文化祭においては、各校の学校紹介を展示発表し合った。</p>	<p>・日頃から委員会間の情報交換、協力体制を築く。</p> <p>・身だしなみについては、役員生徒の意識向上を図るとともに、職員からも積極的に指導していただけるよう依頼してゆく。</p> <p>・活性化にむけた努力をさらに促すためにも、妥当なクラブ監査を行う。</p> <p>・討論の柱については、生徒の意向に偏る傾向があった。事務局の中立性を堅持し、P.Tの意向を十分にくみ取れるよう配慮する。</p>
		3 4	地域交流・ボランティア活動の奨励	<p>・花田養護学校との交流を充実させることができたか。</p> <p>・地域交流の場である「ラムラム広場」など、ボランティア活動を充実させることができたか。</p> <p>・各種ボランティア活動および地域交流の周知と奨励ができたか。</p>	<p>・花田養護学校との交流においては、良好に交流を深めている。参加人数の増員が今後の課題である。</p> <p>・地域の子どもたちと触れ合う、良い経験を積むことができた。参加人数を十分に確保できなかった回があった。</p> <p>・諏訪湖周清掃、赤い羽根共同募金など、岡谷市や地域の各種団体と連携して活動できた。</p>

《学校運営領域》

対象	対応要 点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策	
学校運営	1 3	わかる授業実践のためのスキルアップへの取り組み	<p>・教員一人ひとりが以下の活動を通じてスキルアップを図る取り組みができたか。</p> <p>①研修への積極的参加</p> <p>②教員相互に意見を交換する機会の確保</p> <p>③教員間での問題点等情報の共有</p> <p>④ICT、LAN、校内情報システム等情報機器等の積極的活用</p>	<p>①以下の研修を行った。 特別支援教育、エビペン使用法、救急法、職場環境改善、事務処理、職員健康増進運動、研究授業 多くの研修で職員ほぼ全員が参加し、スキルアップを図ることができた。</p> <p>②公開授業と同時開催で教員相互の授業参観を実施した。感想用紙でコメントを交換する等、授業改善に向けた取り組みをすることができた。一方、他の業務もあり参加率は高くなかった。</p> <p>本年度、教員相互に意見交換がしやすくなるようメンター制を導入した。校内での交流をはじめとして、他校への視察など積極的な活動を始め、世代を超えた交流を行うことができた。</p> <p>③校内情報システムを利用し、問題点等情報の共有を図ってきた。また、メンター制で情報共有をすすめてきた。</p> <p>④③の通り、LANや校内情報システムを積極的に利用した。ICTについてはハード・ソフト両面で十分な配備がなされていないため、限られた機材を有効に利用した。</p>	<p>①引き続き、魅力的で幅広い研修を実施する。</p> <p>②互いに向上できるような職員交流の場を増やしたい。</p> <p>③④より便利になるよう、使い方を工夫したい。</p>	
		4	東高の魅力発信への取り組み	<p>・以下の各種活動を通じて、本校の魅力を外部へ発信する取り組みができたか。</p> <p>①体験入学や公開授業の充実並びに広報</p> <p>②ホームページやメール等を通じた学校行事等の積極的配信、特に地域や、中学生、その保護者に訴求する情報発信</p>	<p>①体験入学は、近隣の高校と日程が重なったため参加人数の減少が心配されたが、ほぼ昨年度並みであった。多くの中学生、保護者、中学校関係者が本校に関心を持ってくださっていると思われる。授業参観や学校紹介、クラブ体験・見学が中心であったが、生徒・保護者・中学校職員の評価は概ね良好であった。また、中学校訪問を通じて中学校の先生方に本校の特色や入試についての説明をし、進路指導において中学生や保護者の方々に本校の特徴を伝えていただいた。その成果として、12月から1月にかけて個別の学校見学の希望をいただき、受け入れることができた。</p> <p>一方、4月のPTA総会、7月の保護者懇談会、10月の全校PTS、11月の同窓会理事会、12月の保護者懇談会の各日に公開授業を実施したが、12月以外、人数は少なかつた。</p> <p>②本校Webサイトに行事の案内等はアップしているが、報告が遅れている。</p>	<p>・体験入学の日程が、他校と重ならないよう調整を図る。</p> <p>・Webサイトの更新をより頻繁に行い、本校の魅力を一層積極的に発信していく。</p> <p>・保護者へのメール配信システム(メール利用)を活用し、本校の教育活動に一層関心を向けていただけるようにする。</p>
		2 4	安全管理体制の確立と徹底	<p>・生徒が安全で安心して通える学校づくりの一環として、行事や集会時の安全管理に心がけ、見回り、放送等の注意喚起を確実に行うとともに、生徒、職員の安全管理の意識向上を行うことができたか。</p>	<p>・行事、集会等で放送を掛けるなど注意喚起を行ってきた。</p> <p>・9月に防災避難訓練を行った。</p>	<p>・引き続き各係で連携し、生徒の健康と安全を守るための努力や注意喚起を続けていく。</p> <p>・実際の災害を想定し、あらかじめ通知されている避難訓練だけでなく通知されない避難訓練の実施について検討していく。</p>